

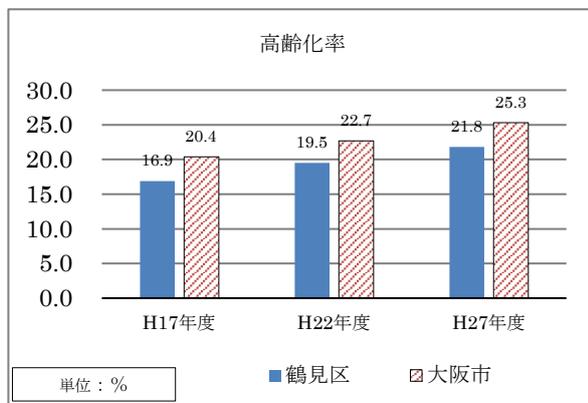
だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり (地域福祉)

【めざすべき状態】

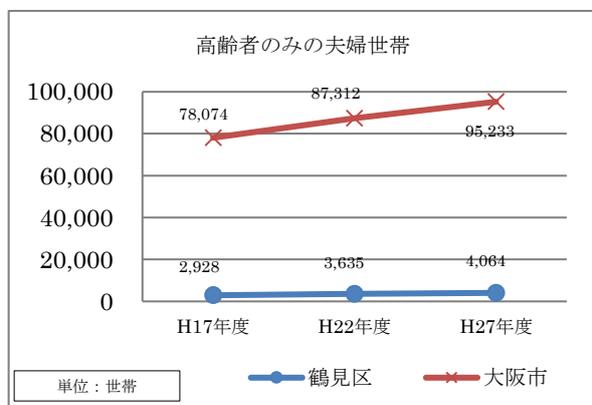
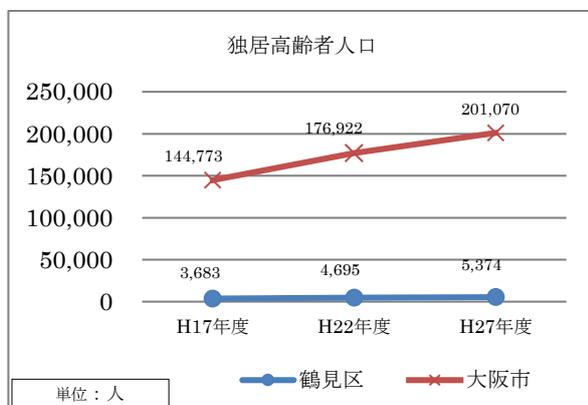
- ・だれもが地域で、自分らしく健康に安心して暮らし続けられる地域社会
- ・地域にかかわるすべての人が、共に生き共に支えあい、生活を楽しむ地域社会

【区の現状】

- 団塊の世代が65歳を迎え、鶴見区でも高齢者（65歳以上）や認知症高齢者（65歳以上の認知症を発症している人）が増加してきており、老老介護、孤立死、認知症による徘徊、虐待など、地域の福祉課題は多様化、複雑化、深刻化している。
- 障がい者手帳の交付数は年々増加している、障がい者への支援は生活全般にわたるものであり、障がいの種別に応じてニーズも多種多様である。
- 認知症高齢者を含めた高齢者や障がい者が地域で住み続けるためには、地域福祉活動の取組みとともに高齢者や障がい者、認知症についての正しい理解の普及啓発が必要である。



◆ 国勢調査



	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
認知症高齢者数 (在宅)	1,343	1,410	1,460	1,473	1,419
身体障がい者手帳 交付数	4,934	5,013	5,097	5,142	5,252
療育手帳交付者数	1,006	1,039	1,082	1,112	1,158
精神障がい者保健福祉 手帳交付者数	903	955	1,020	1,079	1,187

◆鶴見区認知症高齢者数(平成 31 年 4 月 1 日現在)

◆鶴見区障がい者手帳交付者数 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

地域福祉力の向上

課題

- 地域福祉ネットワークが効果的に機能し、高齢者や障がい者の相談支援体制が整備され、地域や地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センターなどの関係機関との連携が緊密に図られることなどにより、地域包括ケアシステムの構築にもつなげていく必要がある。
- 地域で安心して暮らせるよう、地域で暮らし、働き、学ぶ人々への「高齢者や障がい者に対する正しい理解の普及」が必要である。

具体的取組

- ・ 身近な地域の福祉に関する相談窓口「つなげ隊」へのアドバイスやスキルの向上、情報の提供など、総合的な地域福祉推進に係るコーディネートをこなうスタッフ（コミュニティソーシャルワーカー）を配置。
- ・ 地域有償ボランティア活動「あいまち」を推進、実施住民同士の助け合い活動の支援、並びに地域資源の発掘、育成を図る。

◆ 「つなげ隊」の機能強化について、「つなげ隊」相互の情報交換や福祉に関する勉強会を強化するとともに、地域との情報共有や連携について検討する。

- 地域の福祉は12地域の地域活動協議会がやっていたらいいが、「つなげ隊」などの取組は委託された区社協は努力しているが、地域活動協議会の中で正確にこの事業を把握できていない地域もある。対策が必要
- つなげ隊、社会福祉協議会、地域活動協議会の地域福祉部会が、もっと一緒になれるような組織にならないのかなと思う

- ・ 前年度から継続して実施する事業

◆ 既存の取組の強化項目

下段の➢以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見

認知症への理解を深めるための取組

課題

- 認知症の普及啓発に当たっては、「認知症の人の視点に立った認知症の正しい理解」を得られる手法や取組の実施が求められる。

具体的取組

- 「認知症の人の視点に立った認知症の正しい理解」の普及啓発
 - ・ 「認知症アプリ」が認知症のことや早期発見のヒントなどを紹介していることについて、区広報紙だけでなくイベントなどの機会を捉えて積極的に紹介し、アプリの閲覧や情報の活用を促す。
 - ・ 区単位で設置している「認知症相談窓口」をより多くの区民に認知してもらい、相談できる窓口を知ってもらえるよう、上記の取組みに合わせてアピールを強化する。
- ◆ 「認知症を理解し、認知症の人やその家族を支援する応援者の養成講座」開催を区役所が支援する（区内での開催回数、参加者の増に向けた広報など）。
- ・ 医師会他の取組との連携
 - 医師会主催の「認知症講演会」に共催
- 認知症のことを理解していない人が多いので対策が必要

- ・ 前年度から継続して実施する事業

◆ 既存の取組の強化項目

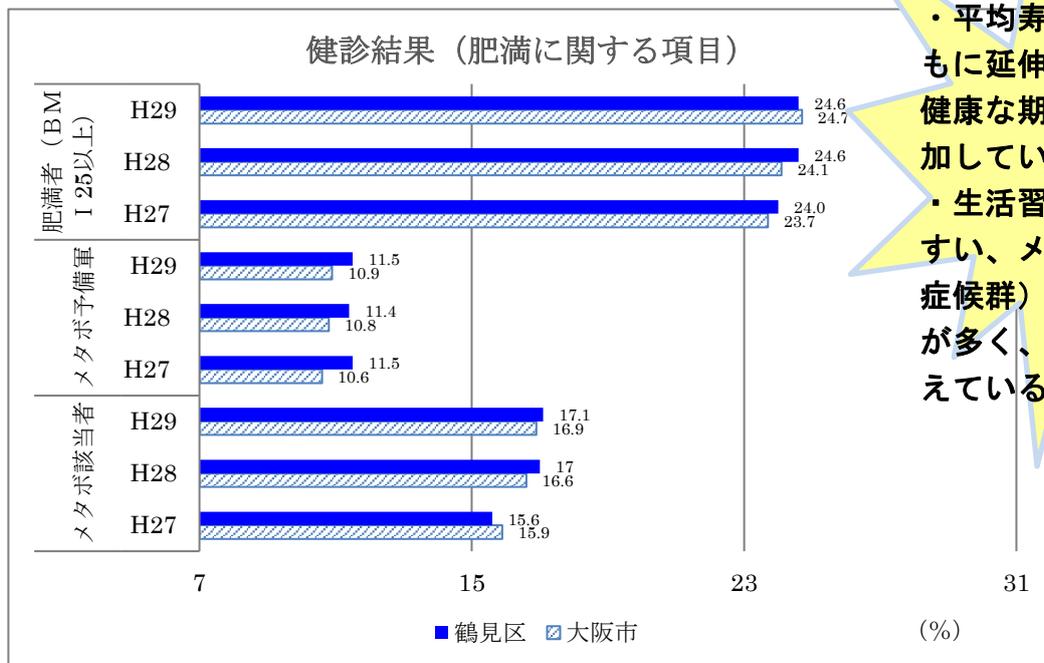
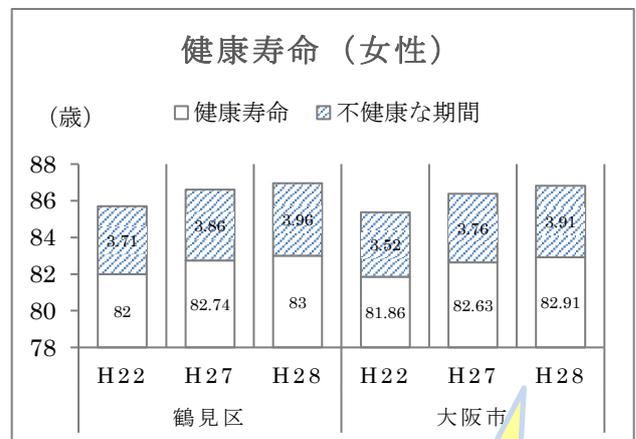
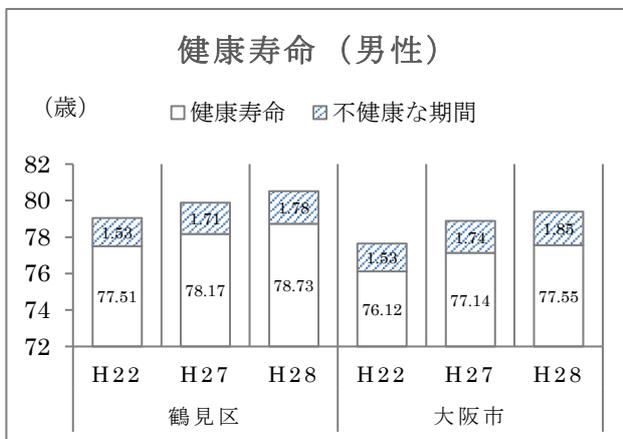
下段の➤以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見

だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり (健康づくり)

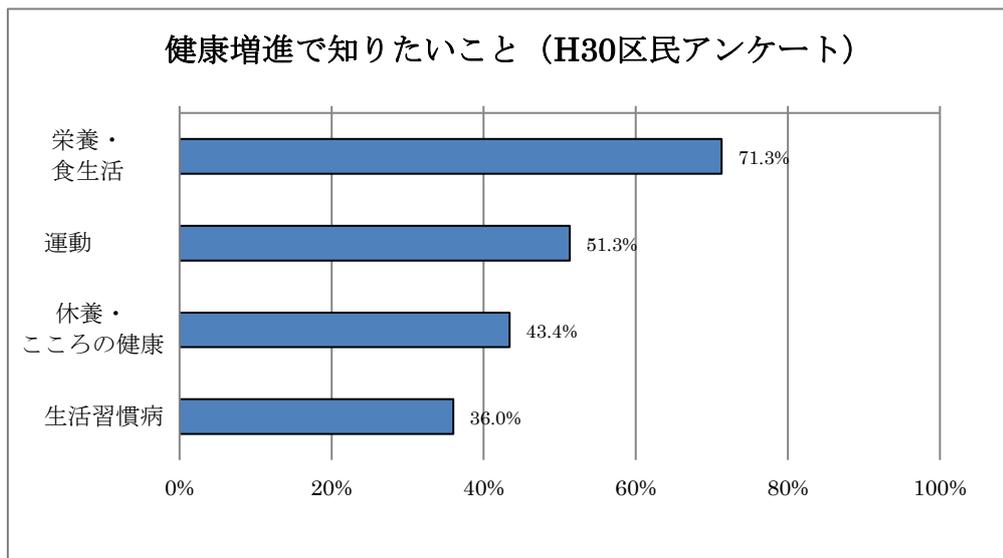
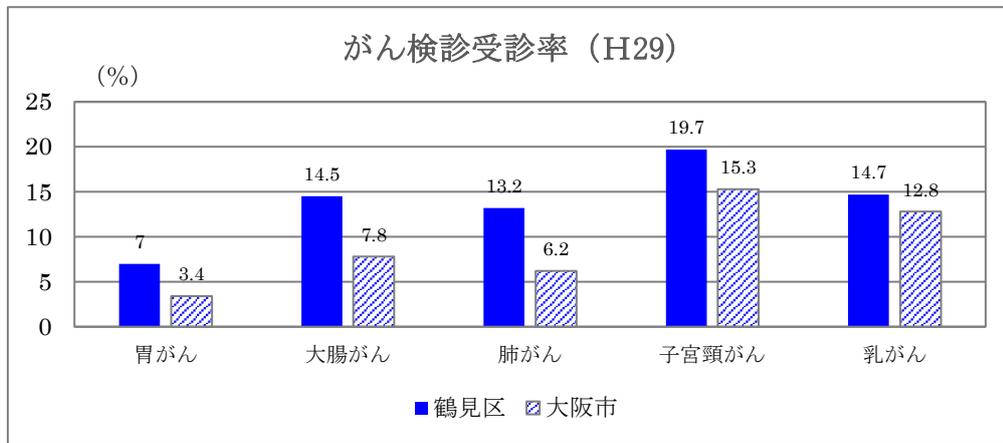
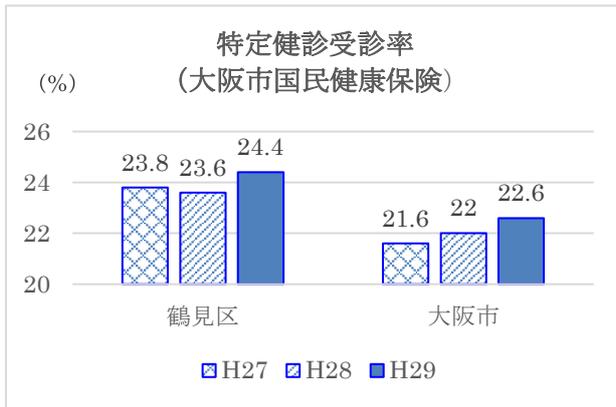
【めざすべき状態】

だれもが地域で、自分らしく健康に安心して暮らし続けられる地域社会。

【区の現状】



・平均寿命・健康寿命ともに延伸しているが、不健康な期間についても増加している。
 ・生活習慣病に繋がりがやすい、メタボ（内臓脂肪症候群）、メタボ予備軍が多く、大阪市平均を超えている。



課題

- ・健康寿命は延伸しているが、不健康な期間も増えているため、取り組みが必要である。
- ・生活習慣病（死亡原因1位である癌や循環器疾患、糖尿病など）の改善策として、生活習慣病と関係が深い肥満やメタボ該当者、メタボ予備軍への働きかけが重要である。
- ・がん検診等の受診率が大阪市平均を上回っており、健康に関心を持っている区民が多いので、正しい「食生活」、適度な「運動」について継続して取り組んでもらうための働きかけが重要である。

具体的取組

○地域のさまざまな取組みと連携し、区民の健康保持・増進を促すとともに、関係団体と協働し、運動習慣づくりや食生活の改善など、区民の自主的な健康づくりを進めるため、生活習慣病の原因でもある肥満者やメタボ該当者への働きかけとともに、幅広い年齢層が参加できるイベント・事業を開催する。

- ・健康まつりの開催
- ・食育フェスタの開催
- ・健康に関する講演会の開催
- ・ウォーキング教室の開催
- ・ウォーキングカレンダーの発行
- ・食育に関する調理実習の開催
- ・百歳体操の継続実施に向けた支援
- ・地域・関係機関等と協働で健康づくりを実践できる場の提供

○「栄養・食生活」「運動」「たばこ」等、様々な健康に役立つ情報発信に取り組む。

- ・広報紙、ホームページ、フェイスブック、啓発チラシの配布（随時）
- ・がん検診・乳幼児健診など区が実施する保健福祉事業の際に啓発実施

- ・前年度から継続して実施する事業

◆ 既存の取組の強化項目

下段の>以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見